

平成28年度 国家公務員における 「ゆう活」・ワークライフバランス推進強化月間 取組結果

- 平成28年度 国家公務員における「ゆう活」・ワークライフ
バランス推進強化月間 取組結果概要 ……P1～2

(参考)

- ・ 別紙1 「ゆう活」実施状況調査結果 ……P3～4
- ・ 別紙2 「ゆう活」・ワークライフバランス推進強化月間
取組状況調査結果 ……P5
- ・ 別紙3 「ゆう活」・ワークライフバランス推進強化月間及び
女性職員活躍に関する職員意識調査結果 ……P6～20

平成28年11月
内閣官房内閣人事局

平成28年度 国家公務員における「ゆう活」・ワークライフバランス推進強化月間 取組結果概要

◎ 「ゆう活」・ワークライフバランス推進強化月間(以下「WLB月間」という。)の取組

- ・期 間：平成28年7・8月
- ・取組内容：働き方改革について、共通取組事項や各府省等・各職場の実情に応じた独自の取組を実施

○ 国家公務員における「ゆう活」

- ・終業時刻を17:15までに設定した職員を「ゆう活」実施者としている。
- ・28年度は、業務の特性や職員の希望・負担を考慮した上で実施

○ WLB月間の共通取組事項

- ①大臣、事務次官等からの強力なメッセージの発信
- ②「ゆう活」と超過勤務縮減の徹底
- ③フレックスタイム制度・好事例の周知徹底
- ④テレワークの推進強化
- ⑤休暇の一層の取得促進

① 「ゆう活」・WLB月間の実施状況

※数値は平均値。詳細は別紙1参照

期間中の「ゆう活」実施者数

本府省等内部部局：**約4.0万人**
(昨年度：約3.7万人)

※職員全体（「ゆう活」を実施しない機関の職員を除く本府省等内部部局：約4.4万人）の**91.5%**(昨年度:86.7%)



期間中毎水曜日の本府省等の退庁状況

- ・「ゆう活」実施者の定時退庁割合：**73.3%**(昨年度：60.9%)
- ・職員全体の20時までの退庁割合：**81.9%**(昨年度：81.2%)
(参考) WLB月間前の水曜日(6月29日)の職員全体の20時までの退庁割合：**77.6%**(昨年度：71.3%)

※定時退庁・20時退庁ができなかった主な事由(括弧内は回答府省等数(全23府省等)。複数回答)
予算等要求業務(20)、異動・採用に係る人事関連業務(11)、災害対応等突発的業務(8)、法案作成関連業務(5) 等

② 超過勤務時間の縮減状況

※詳細は別紙2参照

「ゆう活」実施前の一昨年度と比較して、7・8月共に超過勤務が減少したと回答した府省等数

- ・本府省等内部部局：**23府省等のうち、15府省等**
- ・地方支分部局等：**15府省等のうち、9府省等**

③ 「ゆう活」・WLB月間及び女性職員活躍に関する職員意識調査 結果概要

※詳細は別紙3を参照
%は小数点第1位を四捨五入
▲は減少+は増加を表す。

管理職職員全員及び一般職員の約5%の職員を対象に意識調査を実施（回答数19,352）

「ゆう活」・WLB月間における取組全般 ※別紙3 P6～10参照

- ・職場の意識変化を感じた職員：
59% 昨年度(53%)比+6pt
- ・自身の働き方を見直すきっかけになった職員：
50% 昨年度(46%)比+4pt
- ・職場の業務において実際の変化(改善)を感じた職員：
47% 昨年度(41%)比+6pt
- ・定時以降の業務時間を縮減できたと感じた職員：
40% 昨年度(43%)比▲3pt

「ゆう活」実施の影響 ※別紙3 P13参照

回答者のうち「ゆう活」実施者について、

- ・**夕方の時間帯を活用できた(43%)**（昨年度(37%)比+6pt）、**早く帰りやすい雰囲気職場に醸成された(42%)**（昨年度(36%)比+6pt）との回答が昨年度に比べて**増加**
- ・**朝早く起きることが辛かった(19%)**（昨年度(27%)比▲8pt）、**寝不足になった(14%)**（昨年度(24%)比▲10pt）との回答が昨年度に比べて**減少**

④ 取組結果のまとめと今後の方向性

取組結果

- ・「ゆう活」・WLB月間も2年目を迎え、本府省等の9割を超える職員が「ゆう活」に取り組み、「『ゆう活』実施者の定時退庁割合」「職員全体の20時までの退庁割合」ともに昨年度より増加するなど、**着実に取組が浸透**
- ・「職場の意識変化を感じた」「自身の働き方を見直すきっかけになった」「職場の業務において実際の変化(改善)を感じた」「早く帰りやすい雰囲気職場に醸成された」といった、積極的な回答が昨年度より増加するなど、**WLB月間を続けていくことにより、ワークライフバランスの推進に一定の効果**

今後の方向性

- ・今年度は、「ゆう活」の実施に当たり、退庁時間を早める点に主眼を置き、業務の特性や職員・組織の状況も考慮して実施したところ、ポジティブな影響を感じた回答が増加したことから、**来年度以降もフレックスタイム制の活用等により柔軟な仕組みとすることが有用**
- ・「ゆう活」・WLB月間を経ても、半数以上の職員が職場の業務改善を感じておらず、また、定時以降の業務時間を縮減できたと感じていないことから、引き続き、職場の意識改革に加えて、**業務削減等働き方改革の具体的な取組につなげていくことが重要**

○ 「ゆう活」実施状況調査結果

①期間中の「ゆう活」実施者数・実施日数（本府省等のみ）

※1

	合計	実施日数			
		1週間未満 (1~4日)	1週間以上2週間未満 (5~9日)	2週間以上4週間未満 (10~19日)	4週間以上 (20日以上)
本府省等	約4.0万人 (約3.7万人) ※2	約0.4万人 (約0.3万人)	約0.8万人 (約0.7万人)	約1.7万人 (約0.7万人)	約1.1万人 (約2.0万人)

②「ゆう活」期間中の毎水曜日の退庁結果（本府省等のみ）

	平均	7月6日	7月13日	7月20日	7月27日	8月3日	8月10日	8月17日	8月24日	8月31日
「ゆう活」実施者の 定時退庁割合 ※3	73.3% (60.9%)	77.4% (65.3%)	72.3% (56.9%)	71.3% (57.3%)	78.6% (55.3%)	68.7% (64.7%)	74.3% (58.0%)	76.5% (66.9%)	69.2% (58.8%)	69.8% (65.2%)
職員全体の20時 までの退庁割合 ※4	81.9% (81.2%)	87.3% (87.6%)	81.3% (79.3%)	81.1% (82.7%)	86.2% (80.3%)	76.4% (82.7%)	82.2% (78.3%)	83.6% (83.3%)	78.9% (77.5%)	80.0% (79.2%)

【参考】WLB月間前の水曜日(6月29日)の職員全体の20時までの退庁割合：77.6%（昨年度：71.3%）

※1 終業の時刻を17:15までに設定した職員を「ゆう活」実施者とする。

※2 各表の括弧内は昨年度の数値

※3 「ゆう活」実施者のうち、その時刻に定時退庁した職員の割合

※4 本府省等内部部局職員の約4.4万人（交替制勤務等により実施が困難なため「ゆう活」を実施しない職員等を除く。）のうち、20時までに退庁した職員の割合

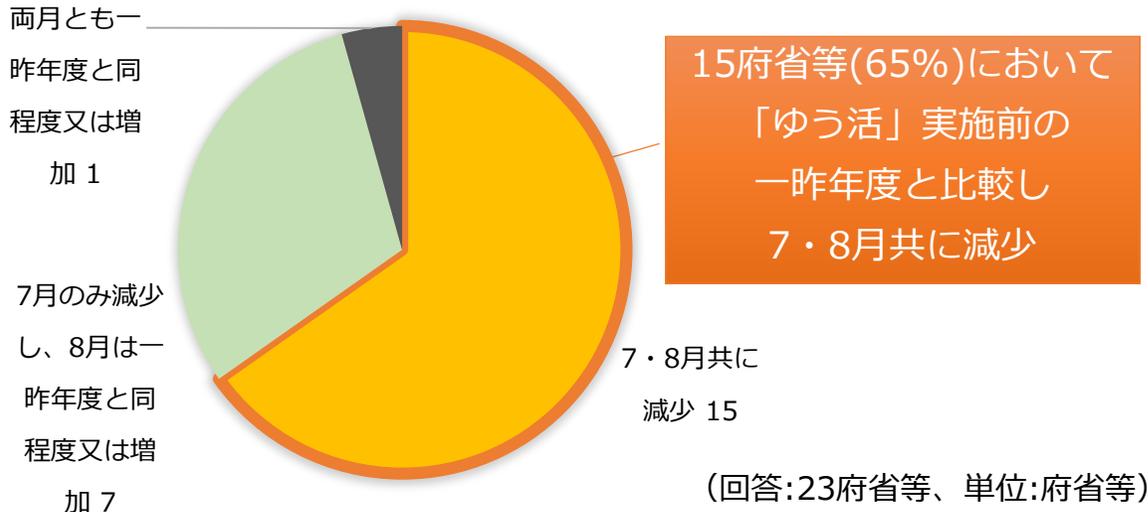
平成28年度 国家公務員における「ゆう活」実施状況
 (本府省等内部部局 7・8月の毎水曜日の実施結果)

府省等名 (外局を含む。)	「ゆう活」実施者の 定時退庁割合 (平均)	職員全体 ^注 の 20時までの退庁割合 (平均)	(参考)
			WLB月間前の水曜日 (6月29日)の 職員全体 ^注 の20時までの 退庁割合
会計検査院	76.4%	87.4%	91.8%
内閣官房	55.9%	80.7%	83.6%
内閣法制局	88.1%	84.4%	86.8%
人事院	78.6%	95.0%	94.7%
内閣府	55.7%	76.0%	77.2%
宮内庁	91.9%	90.4%	90.0%
公正取引委員会	66.9%	86.3%	74.9%
警察庁	73.7%	92.3%	92.7%
個人情報保護委員会	70.5%	84.7%	100.0%
金融庁	53.4%	81.9%	71.3%
消費者庁	59.0%	84.4%	76.6%
復興庁	49.9%	70.2%	54.9%
総務省	78.9%	79.5%	77.3%
法務省	75.4%	85.8%	76.3%
外務省	70.9%	66.6%	80.0%
財務省	68.8%	88.6%	80.0%
文部科学省	63.7%	66.8%	55.2%
厚生労働省	65.7%	81.0%	68.4%
農林水産省	87.7%	90.1%	89.8%
経済産業省	85.9%	89.6%	77.0%
国土交通省	79.5%	76.7%	72.7%
環境省	52.2%	72.5%	69.6%
防衛省	72.1%	78.4%	78.5%
全府省等平均	73.3%	81.9%	77.6%

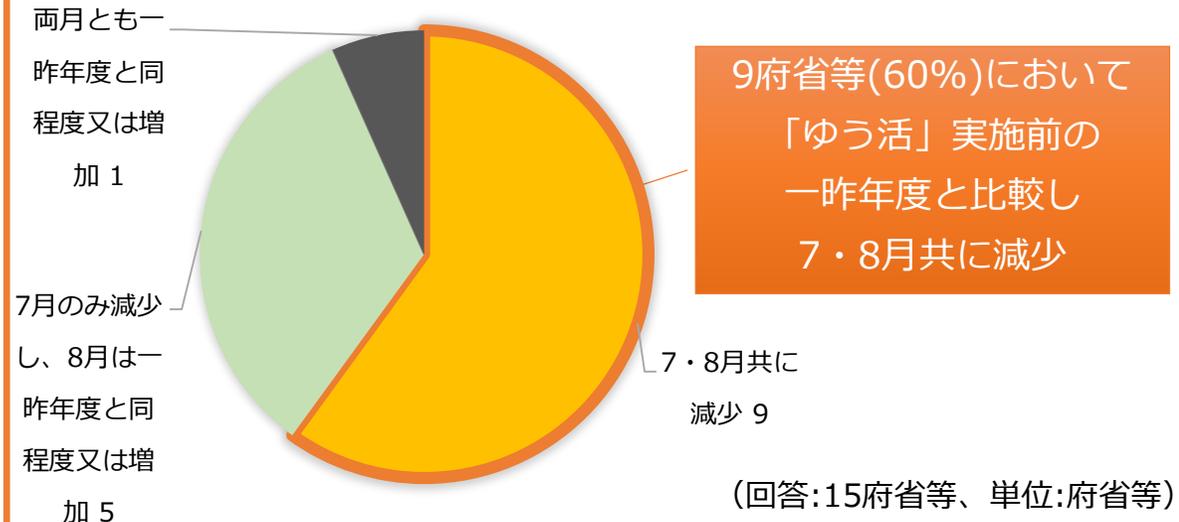
注) 「ゆう活」を実施しない機関の職員を除く。

○ 「ゆう活」・WLB月間取組状況調査結果 (回答:23府省等人事担当課)

① 「ゆう活」実施前の一昨年度7・8月と比較して超過勤務時間が減少しましたか。(本府省等)



② 「ゆう活」実施前の一昨年度7・8月と比較して超過勤務時間が減少しましたか。(地方支分部局等)



③ WLB月間の共通取組事項・独自取組事項の取組状況

○ 各府省等における共通取組事項の取組状況

※各府省等から報告があった主な事項を記載

- <大臣、事務次官等からの強力なメッセージの発信>
大臣、事務次官等による庁舎内の巡回や輪番によるメッセージの発信
- <フレックスタイム制度・好事例の周知徹底>
イントラネット、メール、省内広報誌、局内会議、PCのポップアップで周知
- <テレワークの推進強化>
テレワーク週間・月間の設定、テレワーク用端末の導入やネットワーク環境の整備、試行の実施、特に管理職への実施の呼びかけ
- <休暇(年次休暇・夏季休暇)の一層の取得促進>
休暇計画表の共有・見える化、長期休暇を取得しやすいよう出張や定例会議を行わない期間を設定、メールや局内会議で休暇取得を周知・促進 など

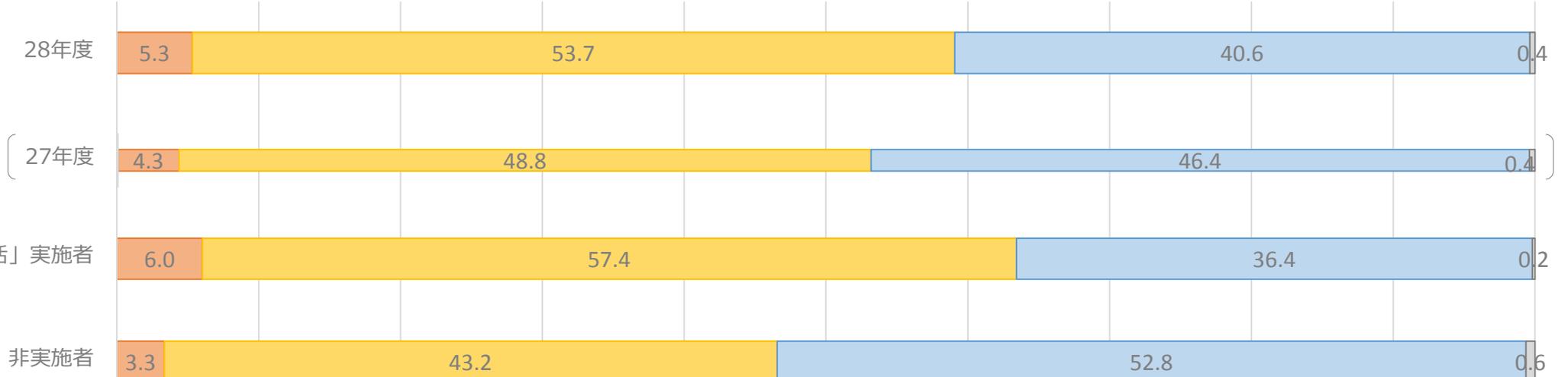
○ 各府省等における独自取組事項の取組状況

※特に効果が高かったものとして各府省等から報告があった主な事項を記載

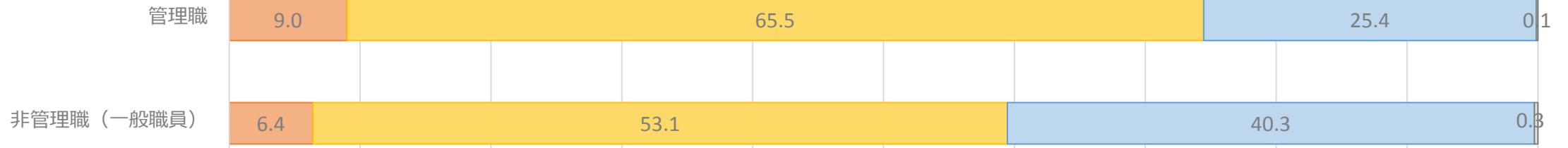
- ・スケジュール、退庁・超過勤務予定を机上やホワイトボード等で見える化
- ・外部講師を招いての講演会、研修、セミナー、勉強会の開催
- ・男性の育児参加及び夫婦のキャリア形成に関する啓発映画上映会の開催
- ・業務効率化・見直しに関する提案募集や意見交換会を実施し、ワークルールを決定
- ・業務の方向性の早期明示、新規資料の削減、資料の事前配布による業務効率化
- ・モデル課室を指名し、模範となる業務改善に向けた取組を実施
- ・組織活性化会議を実施し、結果を省内へフィードバックし、効果的な取組を横展開
- ・作業の締切りを16時以前に徹底 など

【1】 「ゆう活」・WLB月間を経て、職場全体におけるワークライフバランスに関する意識の変化（改善）を感じますか。

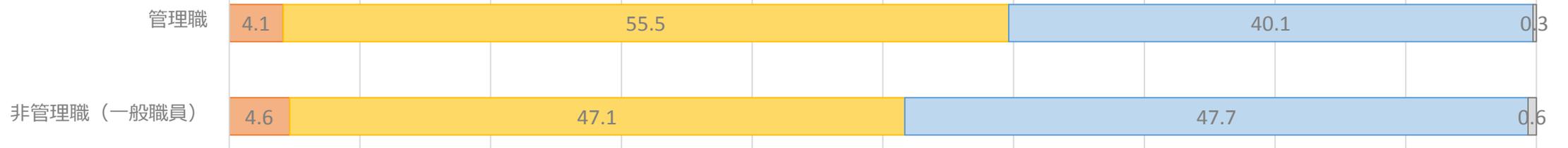
全体



本府省等



地方支分部局等（本府省等以外）

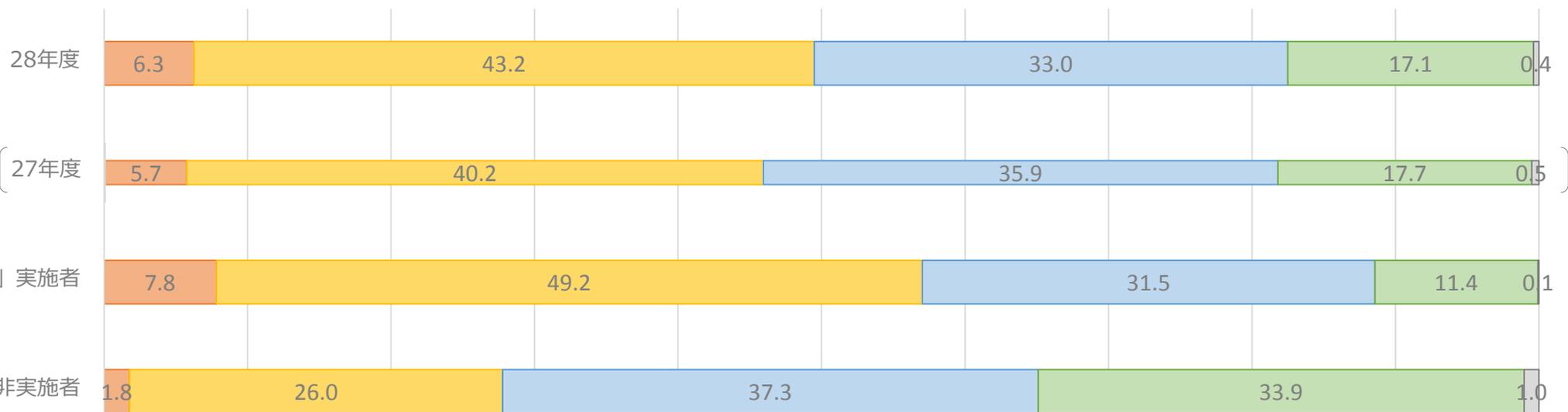


0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

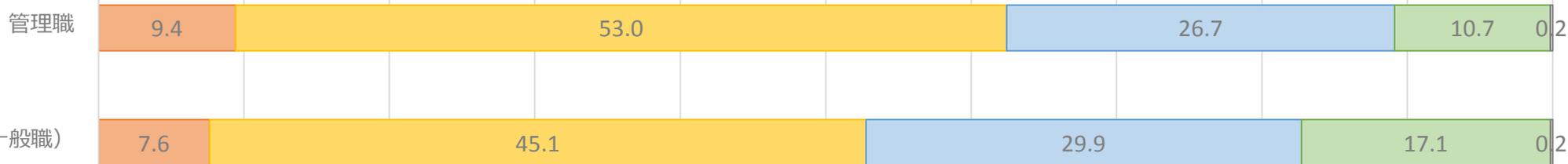
■ 大きく変化したと感じる
 ■ 少し変化したと感じる
 ■ 変化を感じない
 ■ 不明

【2】 「ゆう活」・WLB月間は、自身の働き方を見直すきっかけになりましたか。

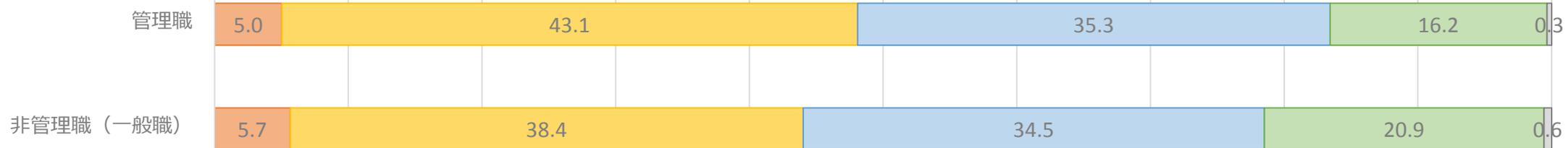
全体



本府省等



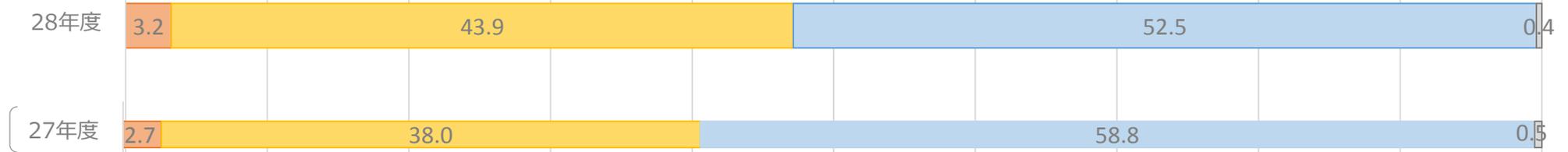
地方支分部局等（本府省等以外）



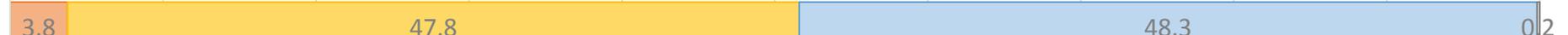
大いになった 少しなった あまりならなかった まったくならなかった 不明

【3-1】 「ゆう活」・WLB月間を経て、職場の業務において実際の変化（改善）があったと感じますか。

全体



「ゆう活」実施者

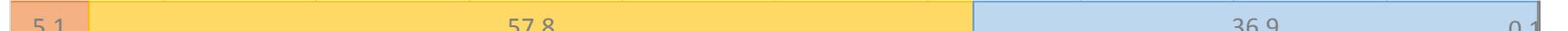


「ゆう活」非実施者



本府省等

管理職

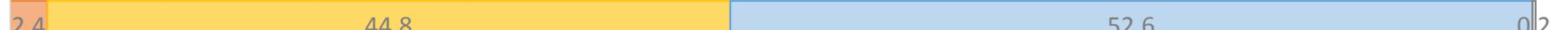


非管理職（一般職）

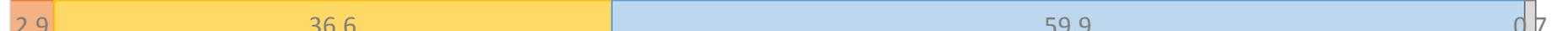


地方支分部局等（本府省等以外）

管理職



非管理職（一般職）

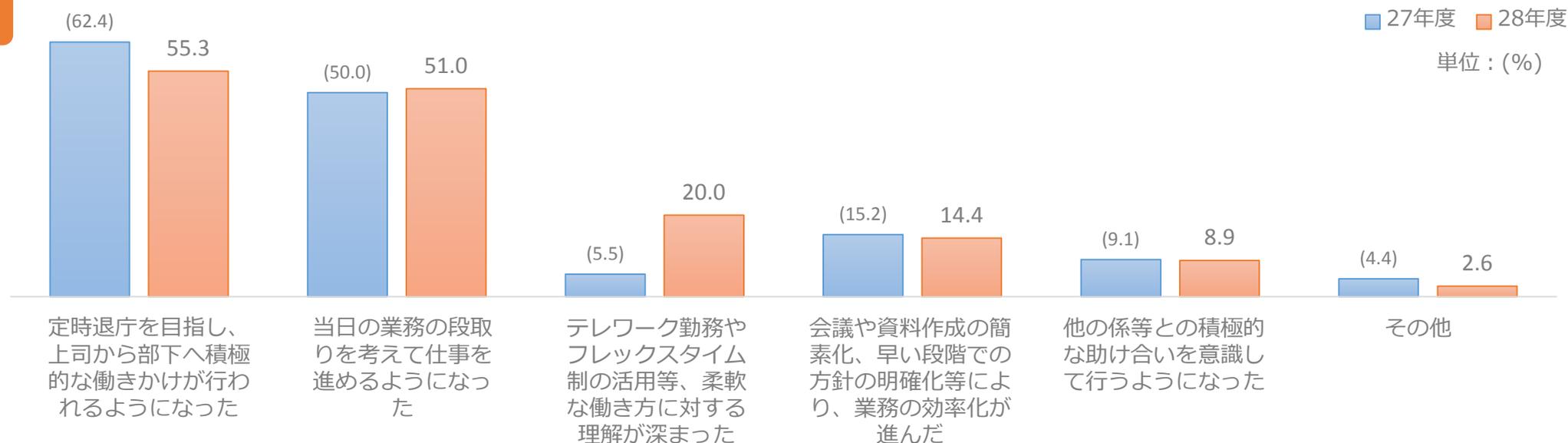


0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

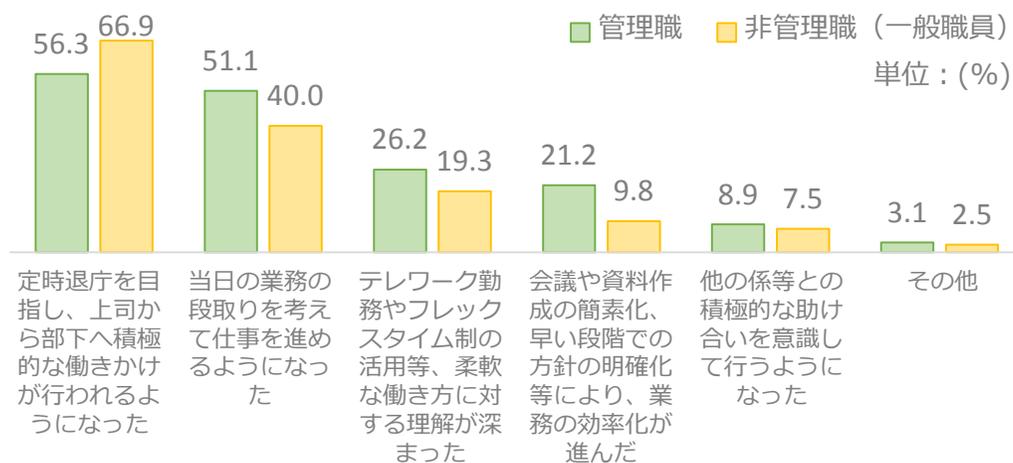
■ 大きく変化したと感じる ■ 少し変化したと感じる ■ 変化を感じない ■ 不明

【3-2】 (3-1で「大きく変化したと感じる」又は「少し変化したと感じる」を選択した者への質問)
 職場の業務において具体的にどのような変化(改善)を感じましたか。(複数回答可)

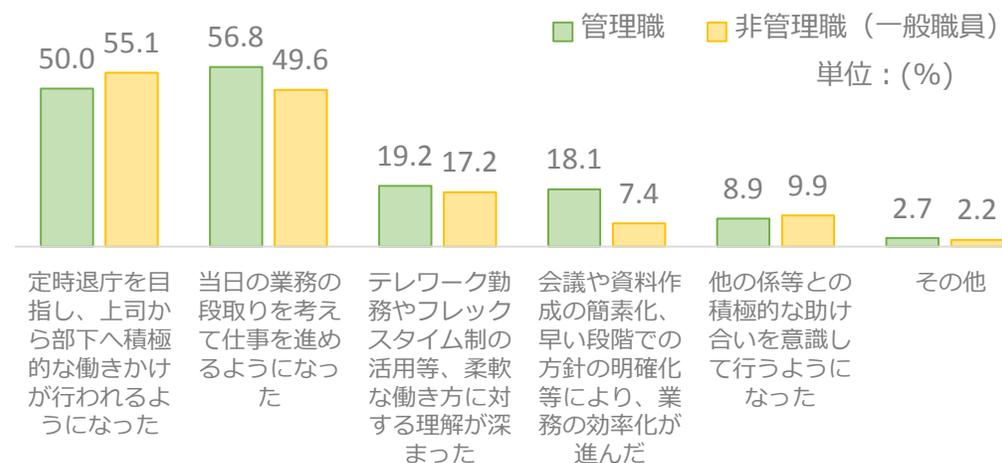
全体



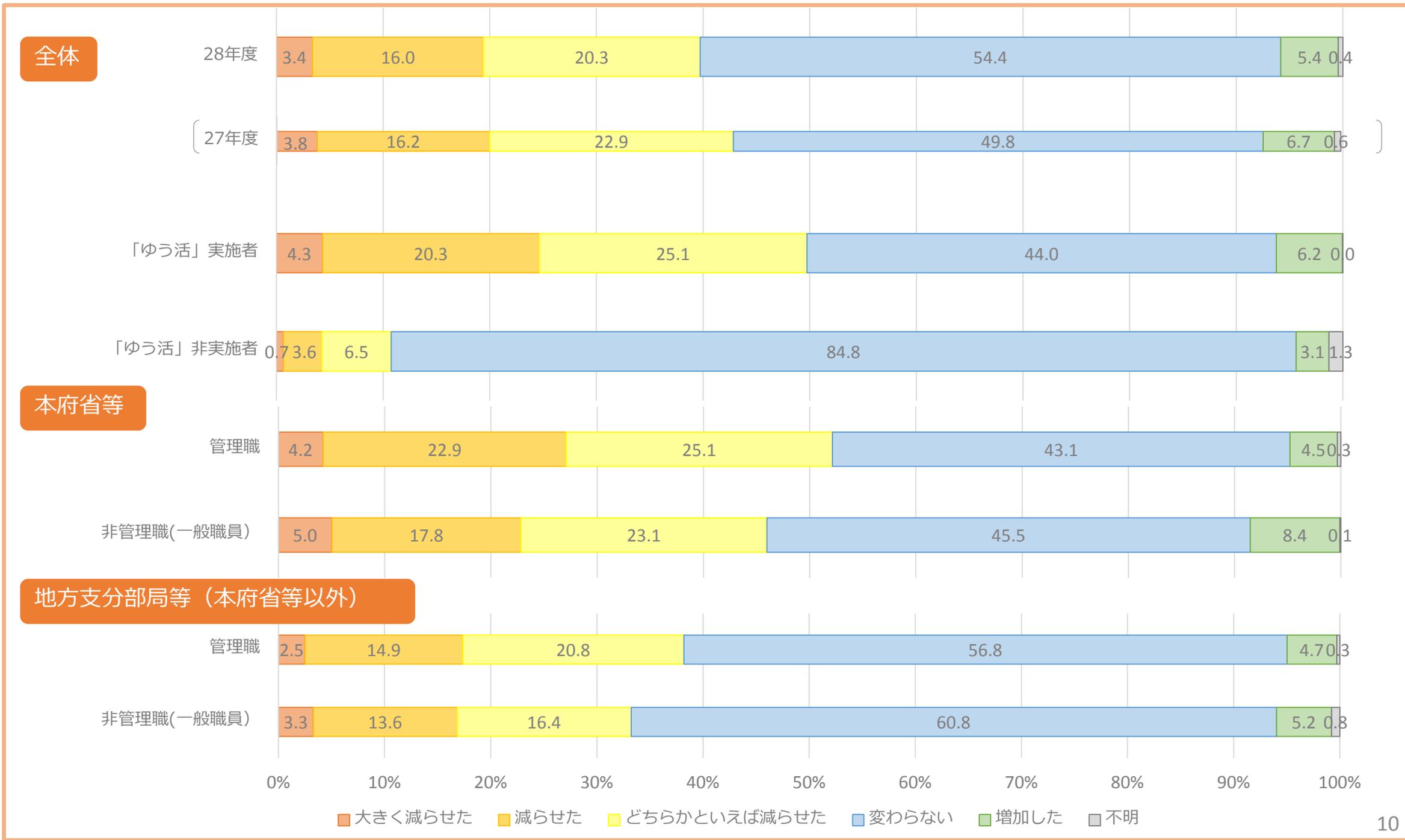
本府省等



地方支分部局等(本府省等以外)



【4】「ゆう活」等の実施により、WLB月間中は御自身の定時以降の業務時間を縮減できたと感じますか。



【5】 本年7～9月に、夏季休暇と年次休暇を組み合わせるなどにより、1週間以上の連続休暇※を取得できましたか。 ※ここでの「1週間以上の連続休暇」とは、週休日や祝日を含めて7日以上連続休暇

(28年度新規調査項目)

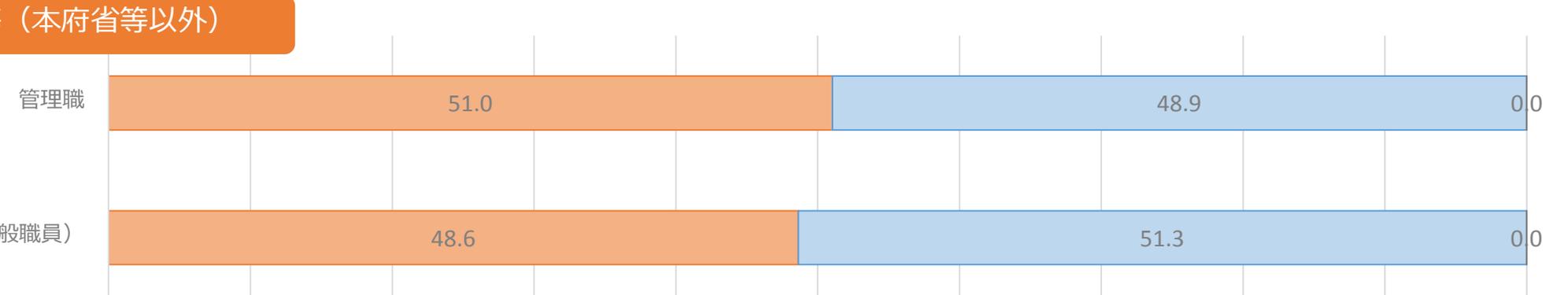
全体



本府省等



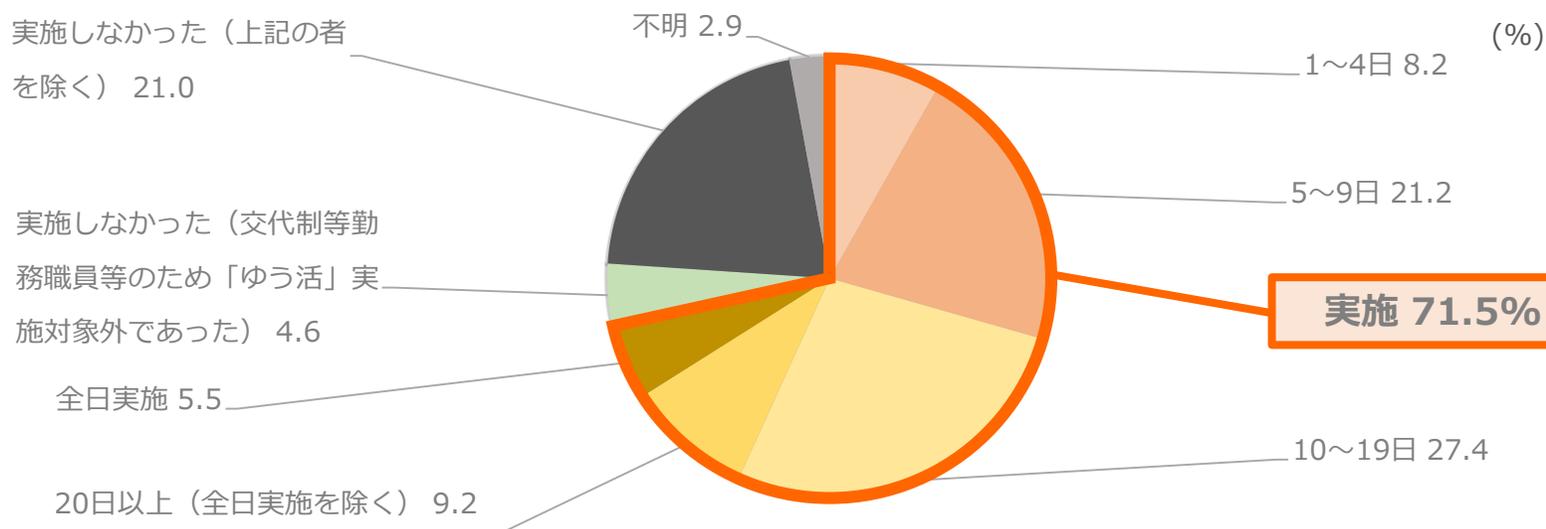
地方支分部局等 (本府省等以外)



■ 1週間以上の連続休暇を取得できた、又は9月中に取得予定 ■ 1週間以上の連続休暇を取得していない、また、取得予定もない ■ 不明

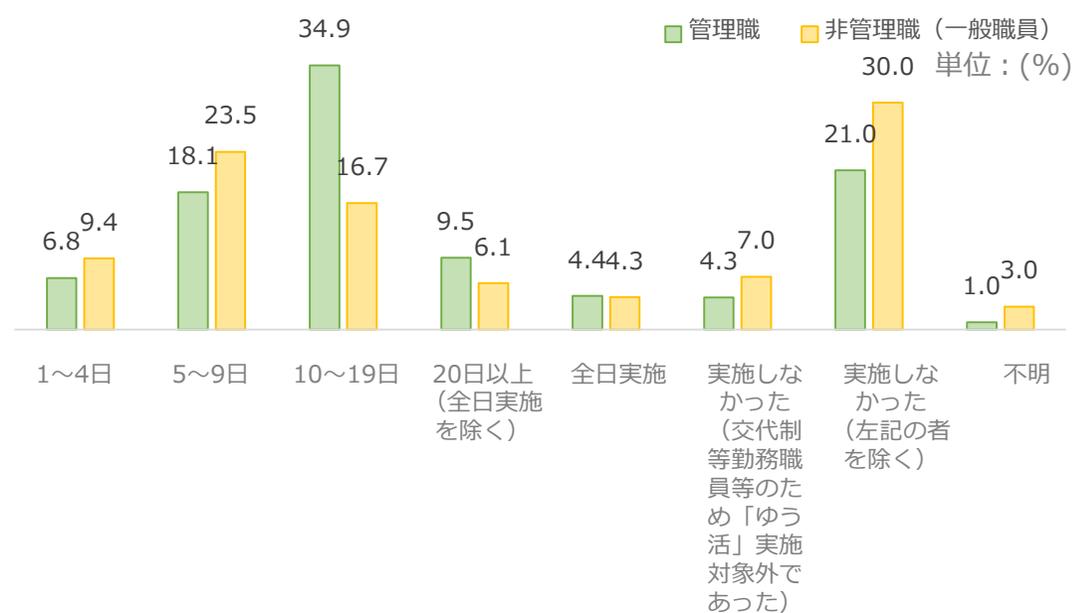
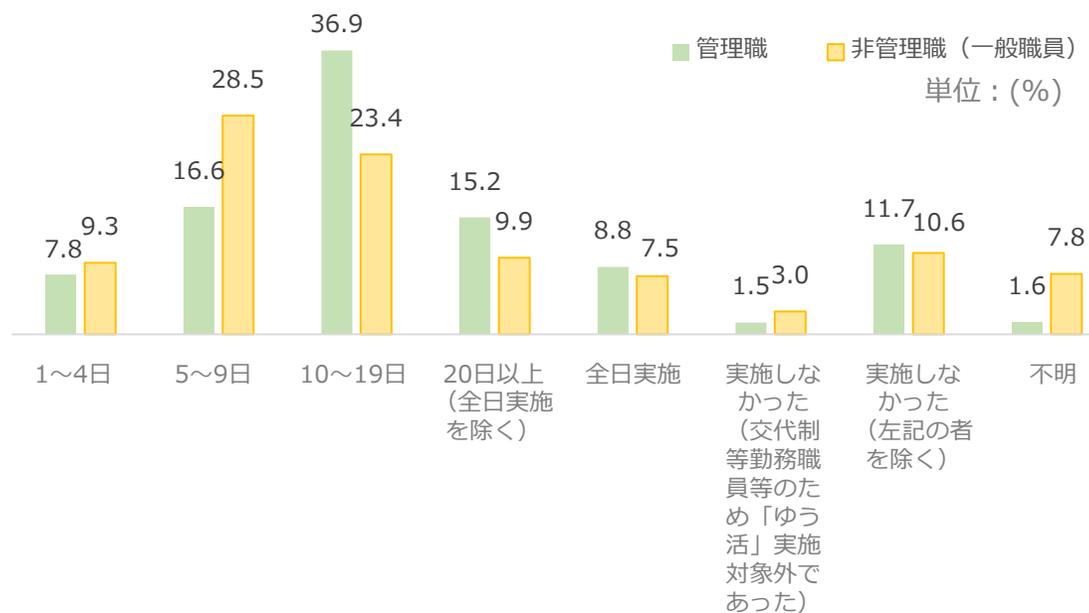
【6】 「ゆう活」について、WLB月間を通して何日実施しましたか。

全体



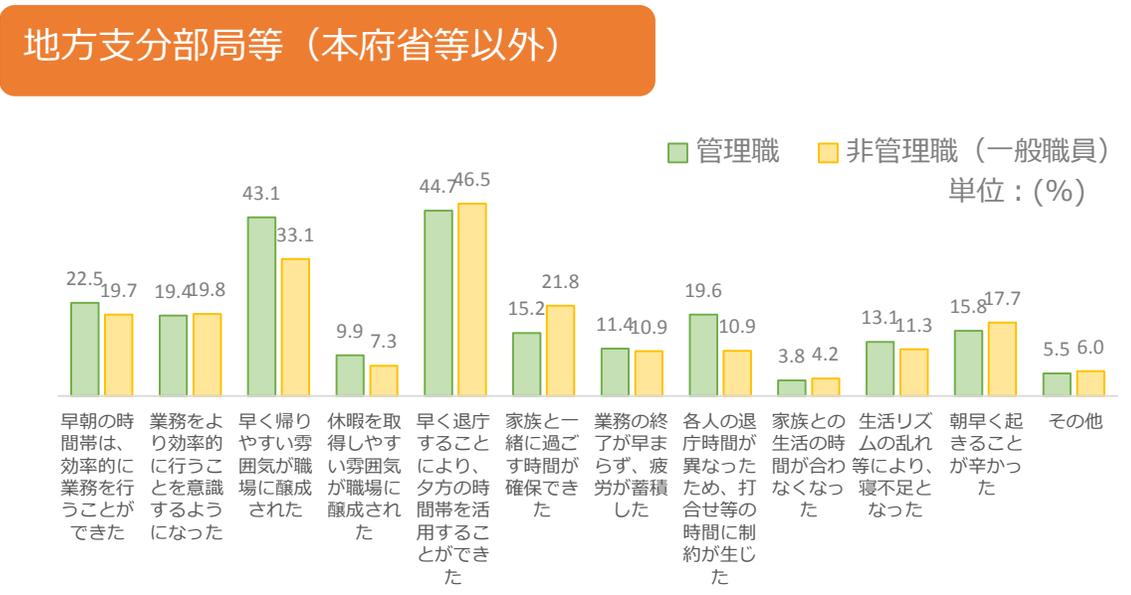
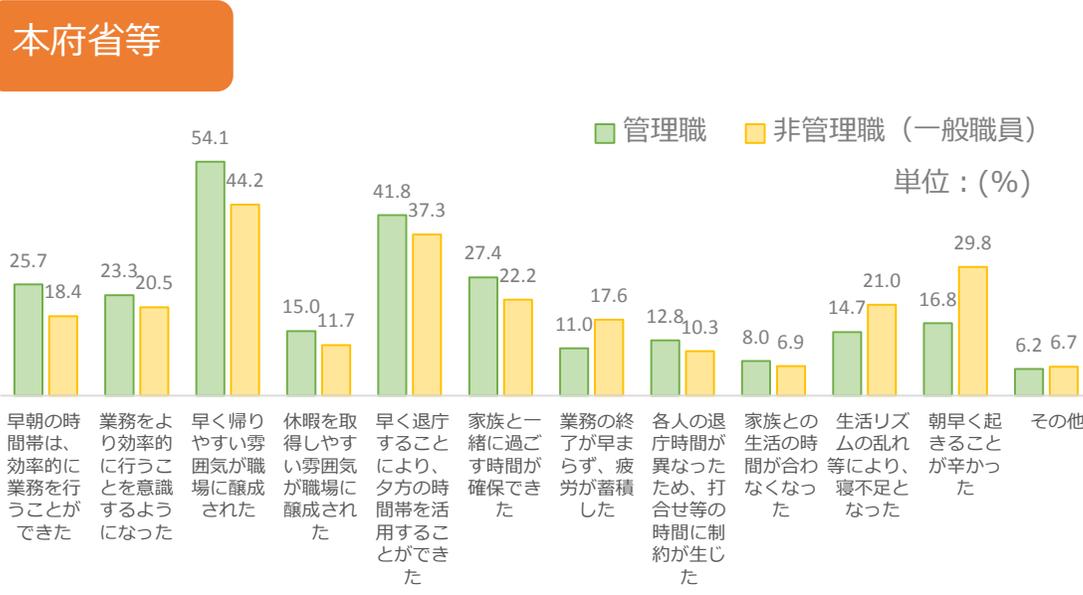
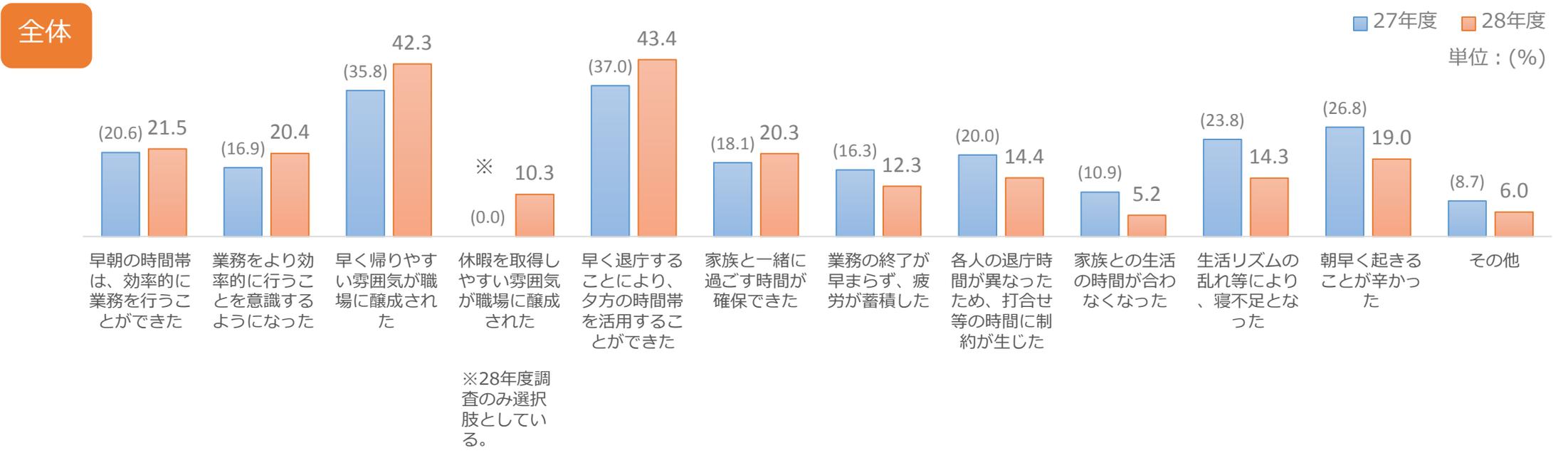
本府省等

地方支分部局等 (本府省等以外)



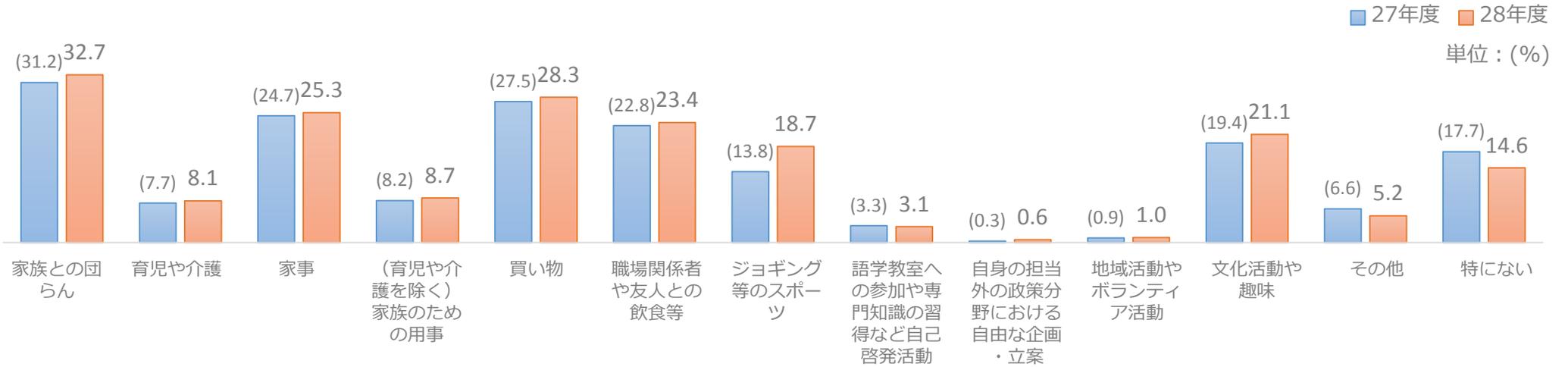
※ 本問の数値は職員アンケートによるサンプル調査であり、また、交替制等勤務等の「ゆう活」を実施しない機関の職員等も含むため、別紙1の「ゆう活」実施結果とは一致しない。

【7】「ゆう活」の実施により、業務や私生活においてどのような影響がありましたか。 (複数回答可)

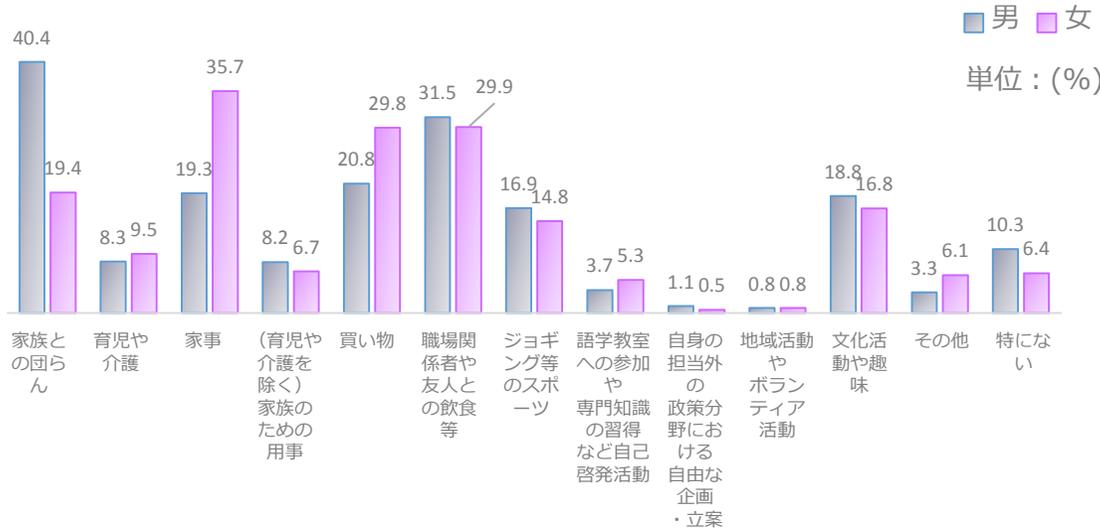


【8】 「ゆう活」で定時退庁した日の勤務時間終了後の時間の活用方法（複数回答可）

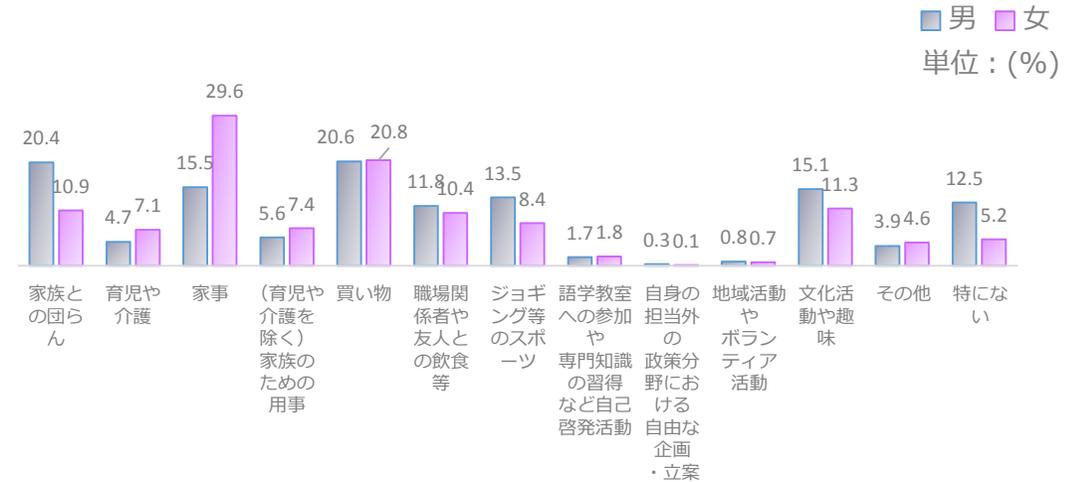
全体



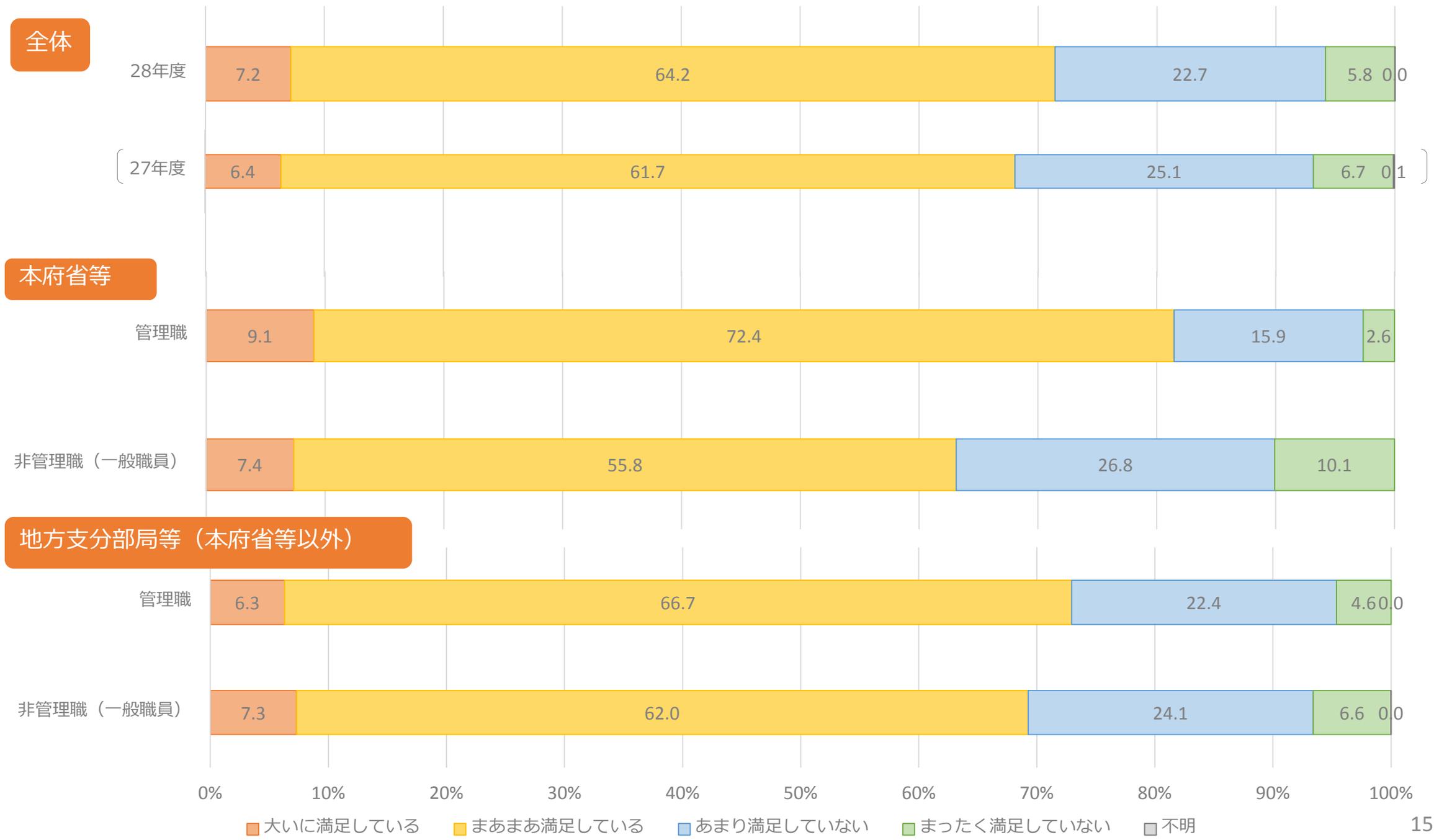
本府省等



地方支分部局等（本府省等以外）

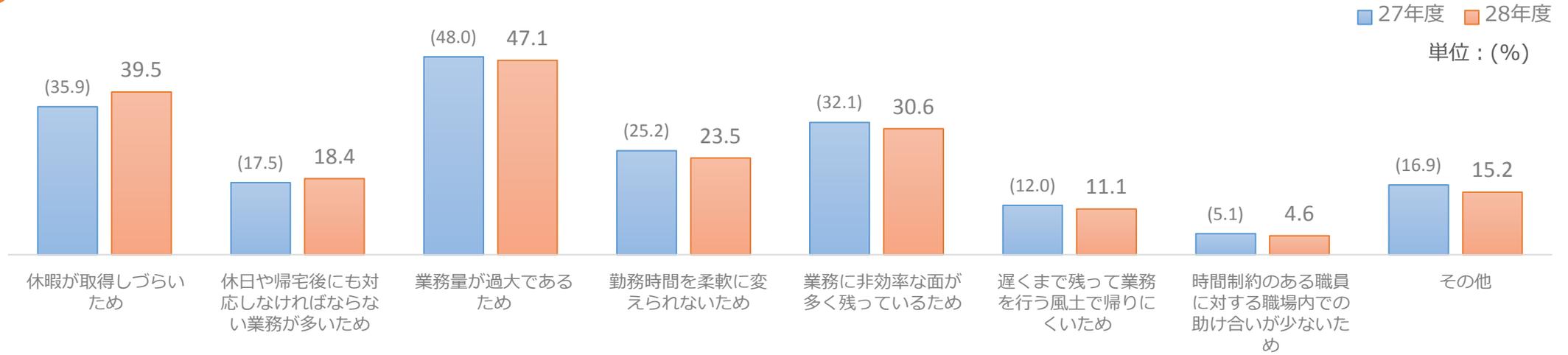


【9-1】 御自身のワークライフバランスの現状に満足していますか。

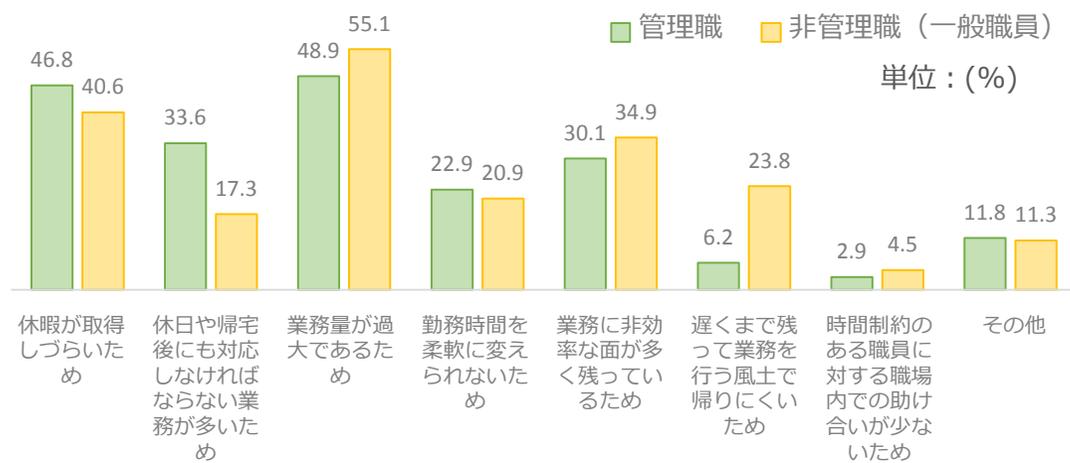


【9-2】 (9-1で「あまり満足していない」又は「まったく満足していない」を選択した者への質問) ワークライフバランスの現状に満足していない理由（複数回答可）

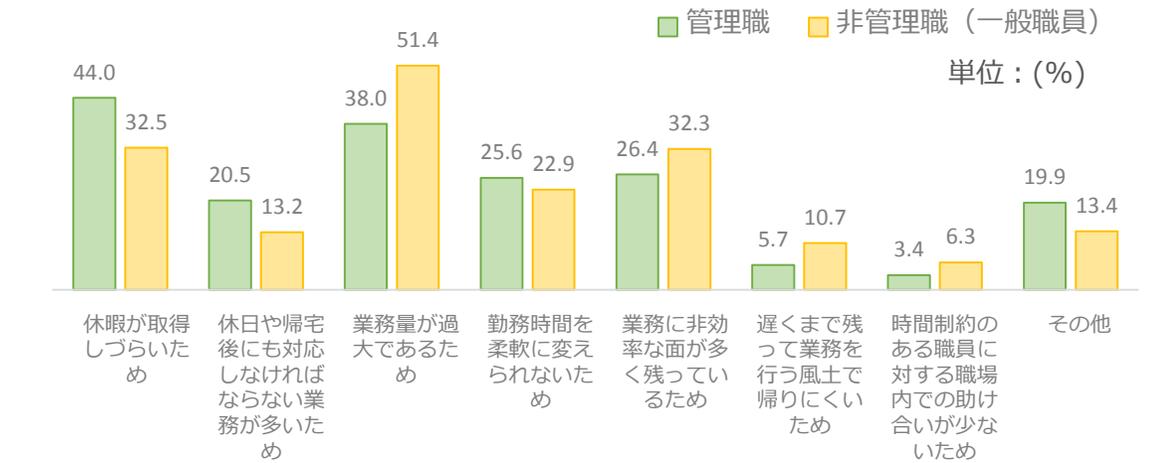
全体



本府省等

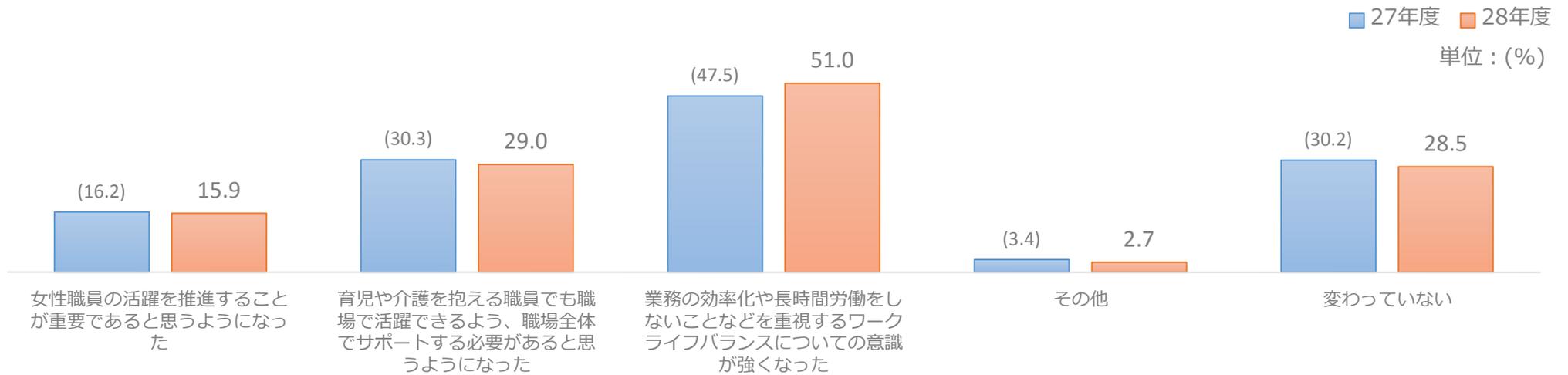


地方支分部局等（本府省等以外）

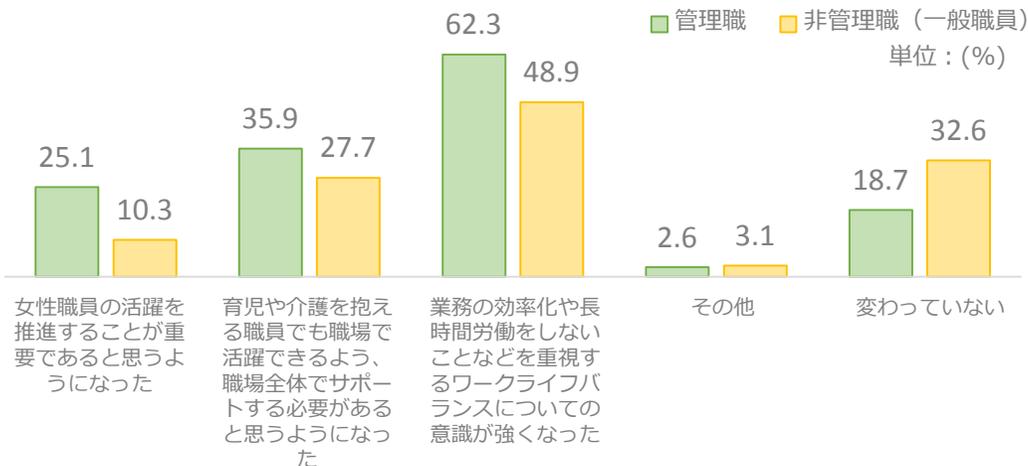


【10】この一年で、職場や業務に対するあなたの意識は具体的にどう変わりましたか。 (複数回答可)

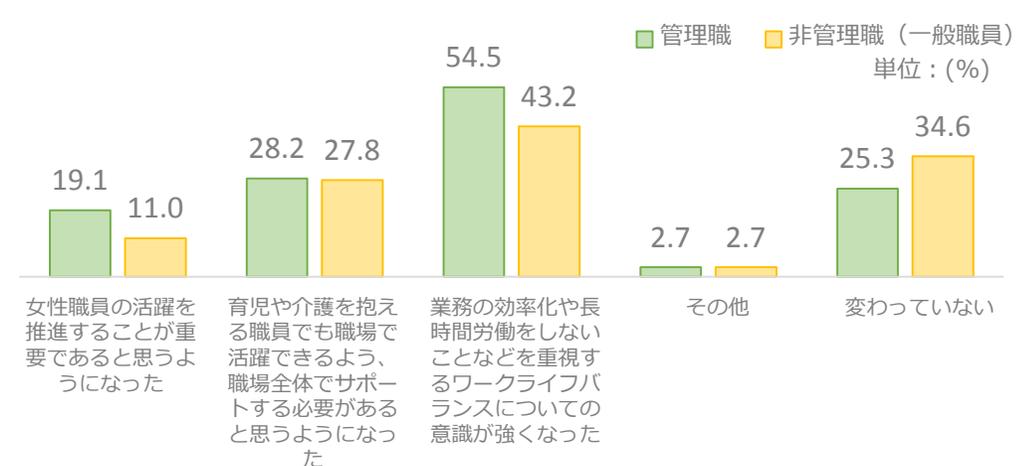
全体



本府省等

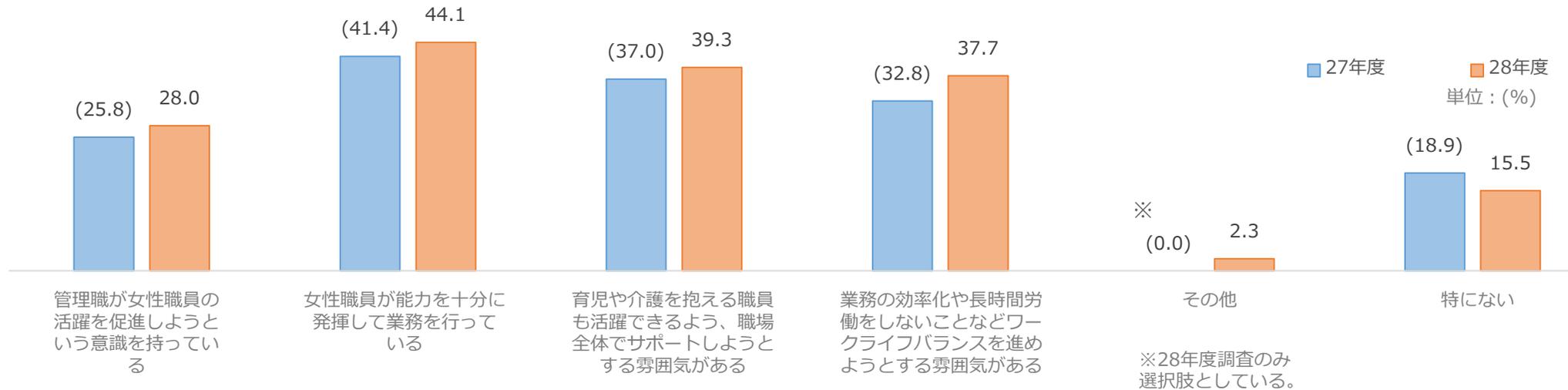
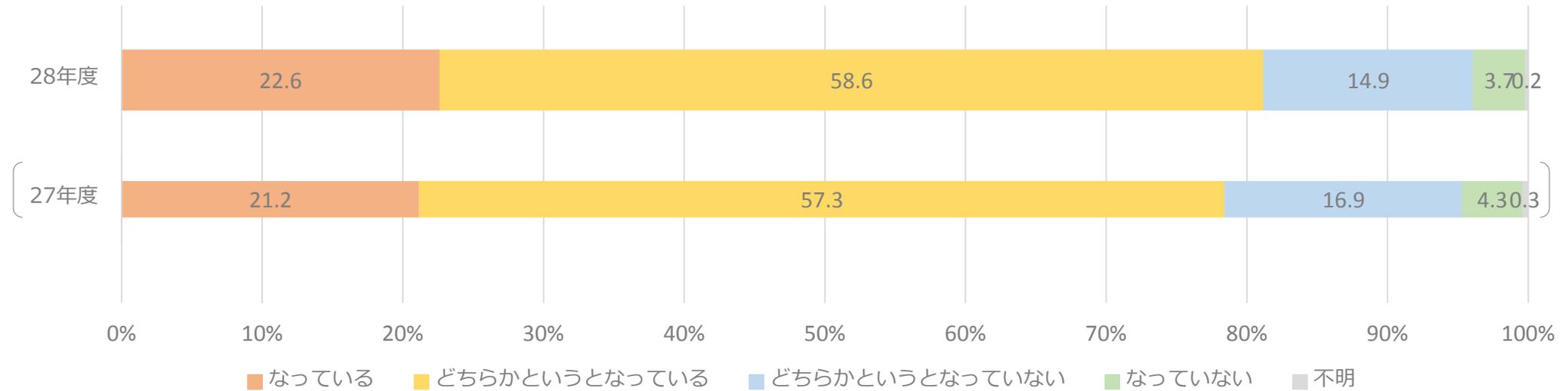


地方支分部局等（本府省等以外）



【11】 現在、あなたの職場は、女性職員が活躍できる環境になっていますか。

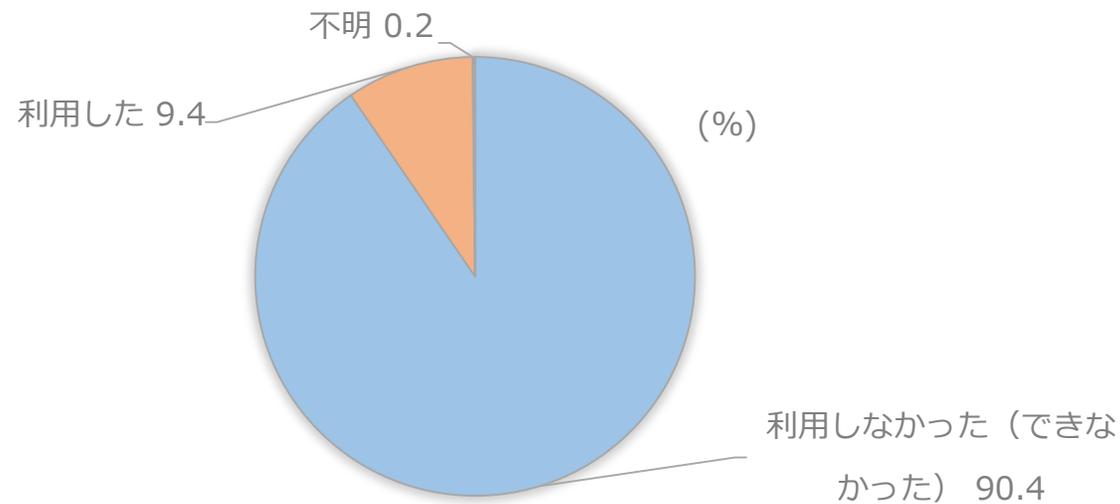
全体



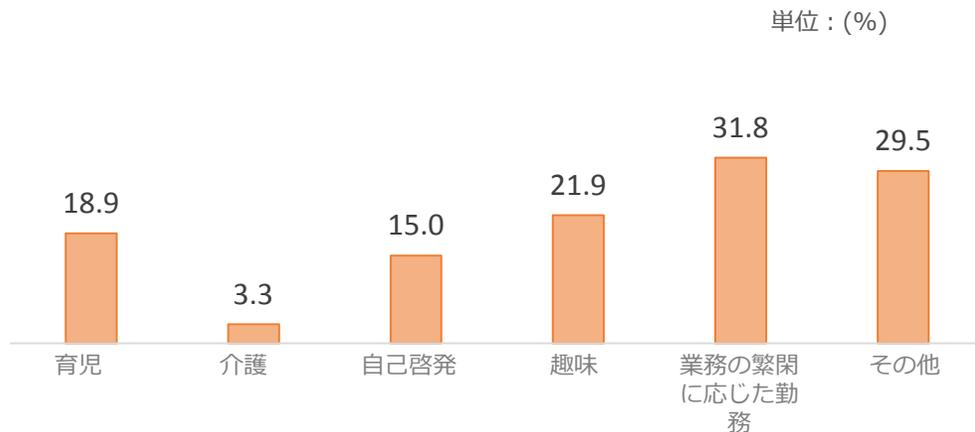
【12】フレックスタイム制の利用の有無及びその理由（理由は複数回答可）

(28年度新規調査項目)

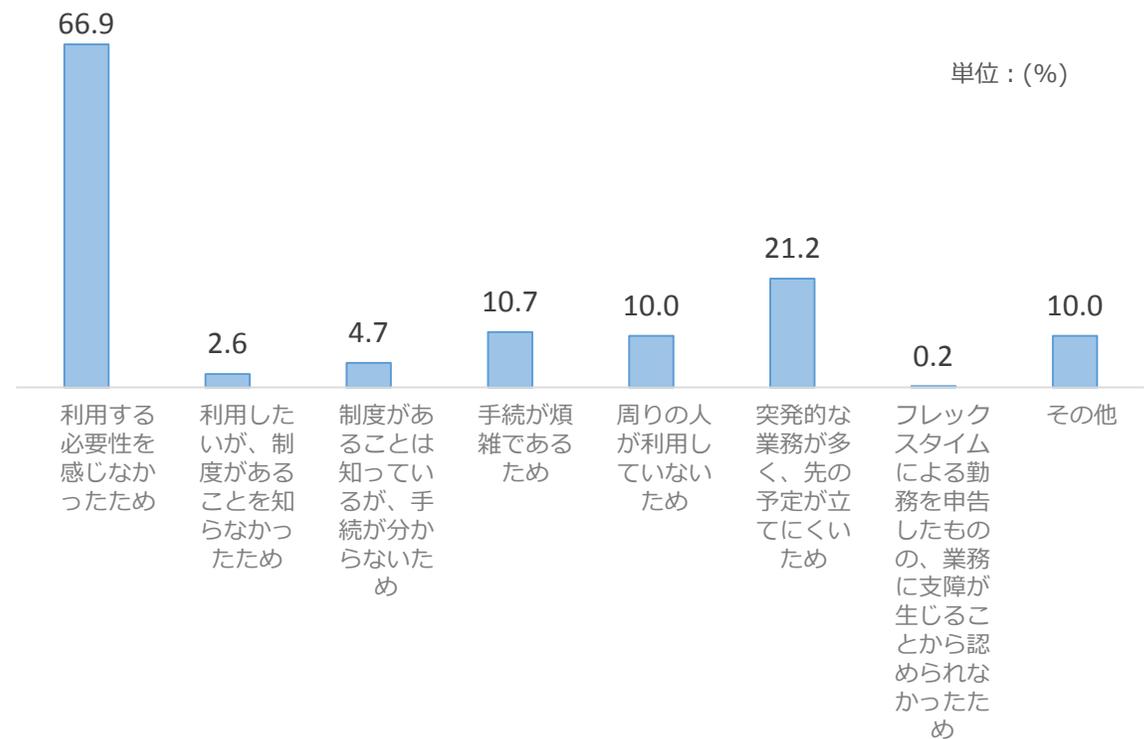
全体



利用した理由



利用しなかった・できなかった理由



(参考) 調査実施概要及び回答者の属性

○ 調査実施概要

- ・実施対象：国家公務員(自衛官等を除く。)のうち、管理職職員全員及び一般職員の約5%の職員(ランダムサンプリング)
- ・実施方法：Webアンケート(一部の府省等は文書で実施)
- ・実施時期：平成28年9月1日(木)～20日(火)
- ・回答数：19,352

○ 回答者の属性

性別	男	女			管理職	一般職員	(%)
	84.9	15.1	管理職・一般職員	51.4	48.6		
年齢	10代	20代	30代	40代	50代以上		
	0.2	7.9	15.0	27.1	49.9		
配偶者の有無	いる(同居)	いる(非同居)	いない				
	59.7	20.0	20.3				
本省・地方	本府省庁等	施設等機関	複数の都道府県を管轄する 地方支分部局	左記以外の 地方支分部局			
	29.6	14.5	24.7	31.1			
子の有無	子有り				なし		
	未子が未就学児		未子が小学生以上				
	同居	非同居	同居	非同居			
	12.3	1.0	30.6	24.5	31.6		
介護・補助が必要な者の有無	介護・補助が必要な者有り(複数選択可)				なし		
	主に自身が介護		主に家族等が介護				
	同居	非同居	同居	非同居			
	1.3	2.4	2.0	12.1	82.4		

※四捨五入等により合計は必ずしも100%とならない。